

「ライフ・シフト」の必要条件②あ・に・き

企業経営漫談士 岡野実空

前回のコラムで取り上げた S・スマイルズ著の『自助論』、またその続編『向上心』には、「あ・た・ま」以外にも有意義な一生を送るための、さまざまな心構えや行動が説かれています。その代表は「あ・に・き」、すなわち「愛・忍耐・希望」。そのため今回のコラムでは、「職業人」としての「ライフ・シフト」の必要条件、「あ・に・き」を考察することになります。因みに「人間」として、それを深く考えるための書籍としては、V・E・フランクルの『夜と霧』（みすず書房）に優るものはありません。

あ：愛

上下関係が主の我が国の企業組織において、多くのメンバーが苦手とするのは、対等なヨコのつながり。同期入社組など一部には存在するものの、そこですら序列ができがちです。

その中でヨコの関係が正しく機能するポイントとなるのは、お互いの「長所」を認め合う「友愛」。例えば、転職者が多いコンサルティング業界は、各自が例外なく前職を引き摺っており、プロジェクトを組むと、その「長所」と同時に「弱点」にも目がいきます。しかし、顧客に対し良いサービスを提供するためには、お互いの「弱点」を「長所」で補い合い、さらに相乗効果を発揮することが求められます。そのときメンバーの行動を左右するのは、「友は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする」（シラー）という貴重な体験の有無。過去の「成功」体験が邪魔になる時代とはいえ、生涯の宝、「友愛」体験まで捨てるわけにはいきません！

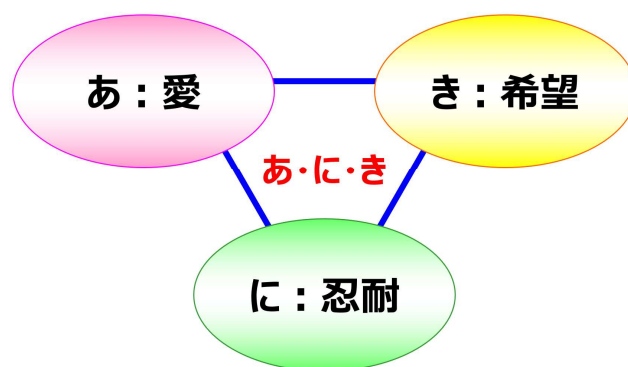
に：忍耐

多くの仕事において、「教育」「訓練」は必須。またそれを重ね一定レベルに達するまで、「忍耐」が必要なことはいうまでもありません。

いま我が国では、新社会人の失業が少ない代わりに、その約3割が3年以内に退職するという事態が続いています。そこからは、新人側の姿勢以上に、受け入れ側の問題を感じます。すなわち、新人の「教育」「訓練」の初期に伝えるべきことは、一定の「忍耐」の必要性。新人がイメージできる学問やスポーツの例を引き、仕事も同様であることを理解させなければなりません。またそれを体感させるのは現場実習。そこで重要なのは、それぞれの現場で最高の手本を見せ、そこに到達したいと心底思わせること。そして、そのための「努力」と「忍耐」の必要性を早期に理解させることです。

因みに「転職」に成功するには、前職をつうじて仕事の「根」ができることが必須。それを土台にステップアップするのが「ライフ・シフト」であり、そのための「忍耐」は避けて通ることはできません。

E-5 「ライフ・シフト」の必要条件②あ・に・き



き：希望

個人的な資質を除き、上記の「忍耐」を可能にするものは「期限」。また漠然とした「夢」以上に、自分がしっかりと役割を果たせる魅力的な仕事が近未来に待っているという確かな「希望」です。

いまは、それが実現できる間は組織に留まるものの、停滞や行き詰まりを感じたら、次なるステージを組織外に模索し、新たなステップアップを考える時代。それはかつてドラッカーが、「半世紀も働く時代は、自らの成長のために途中で1～2回転職した方がよい」と提言していた通りです。またそれには前述の「忍耐」を伴いますが、決して「人生」を逆戻りする訳ではなく、そこから新たな「希望」に向かう、「尾根歩き」の楽しい行程なのです。

「ライフ・シフト」で30年先行し、その意義を実感して「下山」中の私とは違い、ミドルの皆さんはまだ人生の「尾根」へ登攀中。少々危険は伴いますが、単独峰への登山とは違った景色を味わうのも決して悪くはありません。その応援に、再度チャップリンのご登場をいただきます。「人生を恐れてはいけません。人生に必要なものは、勇気と想像力と少々のお金だ」。

平成30年12月10日 実空